

がん化学療法の Synbiotics 投与が 消化管に及ぼす影響について

○久永文¹⁾ 枝廣由季子¹⁾ 大橋幸子¹⁾ 井原加代子²⁾ 関恭子²⁾ 平手ゆかり³⁾
中益瑞穂⁴⁾ 富満由里子⁵⁾ 尾阪ひかり⁵⁾ 丸伊陽子⁵⁾ 坂井美哉⁵⁾ 尾関小百合⁵⁾
杉本昭子⁵⁾ 小林優美⁵⁾ 名越麻里子⁵⁾ 岩田弘子⁵⁾ 小尻千子⁶⁾ 砂杉森弥生⁵⁾
的場是篤⁶⁾ 白岩浩⁷⁾

独立行政法人 労働者健康福祉機構 神戸労災病院 栄養管理室¹⁾ 薬務部²⁾
検査科³⁾ リハビリテーション科⁴⁾ 看護部⁵⁾ 消化器内科⁶⁾ 外科⁷⁾

【背景】抗がん剤投与時に患者が自覚する消化器症状は、副作用の中で最も頻度が高く、患者の quality of life (以下、QOL) に大きく影響し投与中止せざるを得ないこともある。Synbiotics には、有害菌の増殖を抑制し、宿主の免疫力を増強し、さらに宿主の腸管機能を賦活化する作用を有することが認められている。

【目的】がん化学療法を施行される患者を対象とし、Synbiotics を投与することによって、消化器症状の軽減、食事摂取量の増加、抗がん剤投与の継続性の向上に繋げられるのではないかと考え検討を行うこととした。

【方法】対象患者：当院、外科・消化器科・呼吸器科で扱う切除不能な進行・再発の胃癌、大腸癌および肺癌(非小細胞肺癌)の患者17名(男性11名、女性6名)。
期間：2009年10月～2010年11月

検討項目：消化器症状の有無、がん化学療法の継続性、血液学的検査値、食事摂取量調査を行い、また Synbiotics 飲用の継続性についても検討した。副次的評価として DAO 活性の測定を行った。

【結果および考察】対象患者17名(Synbiotics 飲用群8名、Synbiotics 非飲用群9名)、抗がん剤投与を行ったのは合計41コースであった。何らかの理由で抗がん剤投与を延期したコースは、飲用群で2回、非飲用群で6回であった。Synbiotics は継続して飲用ができ、また抗がん剤投与の継続性の向上に有用であると思われた。Synbiotics 投与における消化器症状、食事摂取量、また DAO 活性の変化について若干の文献的考察を加え報告する。